

佐藤文吉生誕100周年

回覧

# 文吉乙けし展



入館料  
無 料

令和5年 10月28日(土)~12月8日(金)

真室川町立 歴史民俗資料館

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町233-1

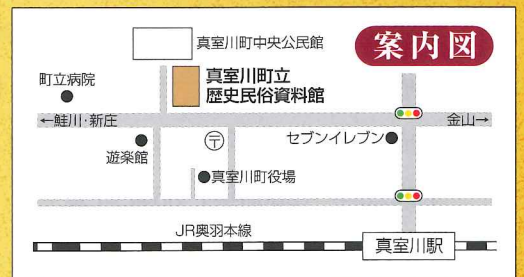
お問い合わせ/真室川町教育委員会 0233-62-2223

真室川町立歴史民俗資料館 0233-62-3511

●開館時間/10月/ 9:00~16:30 (最終入館16:00)

11月/10:00~16:00 (最終入館15:30)

●休 館 日/月曜日・10/31(火)・11/2(木)・11/24(金)・11/30(木)



# 佐藤文吉略歴

- 大正11年（1922年）8月14日 真室川町大字及位で出生。  
父 甚吉 母 としを
- 昭和12年（1937年）3月、及位高等小学校卒業。  
伯父丑蔵（岩手県湯田町）のもとで木地挽きを修業。
- 昭和13年（1938年）10月17日、及位に戻り、落合滝の及位轆轤工場で父甚吉、祖父に当たる文六と共に木地挽きに従事。こけしは注文によって製作。
- 昭和14年（1939年）4月、内緒で国鉄入社試験を受けて合格。文六は認めず木地業に戻る。
- 昭和18年（1943年）22歳で出征。北満州、フィリピン、など。サイゴンで終戦。
- 昭和21年（1946年）5月、復員家業の木地づくりに従事。
- 昭和23年（1948年）院内金子禮蔵次女トシと結婚。
- 昭和24年（1949年）遠刈田の佐藤光保の依頼で2ヶ月ほど新型こけしの木地下を挽く。
- 昭和25年（1950年）3月、祖父文六逝去。木地業を一生の仕事とする決意。  
こけしづくりも始める。
- 昭和29年（1954年）「こけし・人・風土」が刊行。こけし工人として知名度あがる。
- 昭和31年（1956年）日活映画監督の田坂具隆氏や蒐集家大浦泰英氏の薦めでこけし界に復帰。
- 昭和33年（1958年）胴の上下に波線を入れるとともに蒔絵にヒントを得て椿模様を創作。
- 昭和36年（1961年）全日本こけしコンクール2位入賞。以来数々の入賞を重ねる。
- 昭和37年（1962年）真室川町文化功労賞を受賞。
- 昭和40年（1965年）強烈な表情という作風があらわれる。
- 昭和42年（1967年）全日本こけしコンクール 伝統こけし部門内閣総理大臣賞受賞。  
以来、招待出品者となり無鑑査工人。
- 昭和49年（1974年）第1回「文吉こけし展」（新庄市教育委員会、こげす会新庄）
- 昭和50年（1975年）8月6日、真室川水害で工場全滅。真室川を離れる決意。
- 昭和52年（1977年）第2回「文吉こけし展」（新庄市教育委員会、こげす会新庄）
- 昭和53年（1978年）天童市に転居。
- 昭和54年（1979年）東京都新宿で「佐藤文吉と三十人展」開催。
- 昭和56年（1981年）那須御用邸から招待、昭和天皇皇后に「文吉こけし」献上。
- 昭和60年（1985年）郡山市「かねきギャラリー」で個展。
- 昭和61年（1986年）札幌市「天野邸」で近作展（個展）。
- 昭和62年（1987年）水戸市京成百貨店ギャラリーで個展。
- 平成4年（1992年）山形大沼百貨店ギャラリーで70歳記念個展。
- 平成6年（1994年）天童市技能功労賞受賞。
- 平成8年（1996年）水戸市京成百貨店ギャラリーで伝統こけし「佐藤文吉と五人展」。
- 平成10年（1998年）「佐藤文吉こけし展」（真室川町教育委員会、同歴史民俗資料館）
- 平成19年（2007年）第3回「文吉こけし展」（新庄ふるさと歴史センター、こげす会新庄）
- 平成20年（2008年）85歳逝去